

27年7月分 製品市場の荷動き・価格先行き動向調査

1. 調査実施期間 平成27年 7月1日～ 27年7月10日

2. 調査実施方法

全国の製品市場に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
7月分の回答企業数は7社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={(「増加」の評価を行った回答の割合)×2+(「やや増加」の評価を行った回答の割合)-(「減少」の評価を行った回答の割合)×2-(「やや減少」の評価を行った回答の割合)}÷2
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

(1) 荷動き動向 Weight. D. I.

| 品目 | | 27/7月 | 8月 | 9月 |
|------|--------|--------|--------|--------|
| 入荷動向 | 国産材製材品 | △ 10.0 | △ 30.0 | 0.0 |
| | 外材製材品 | △ 30.0 | △ 10.0 | △ 10.0 |
| | その他 | △ 25.0 | △ 37.5 | △ 12.5 |
| 販売動向 | 国産材製材品 | △ 40.0 | △ 30.0 | 0.0 |
| | 外材製材品 | △ 30.0 | △ 20.0 | 0.0 |
| | その他 | △ 12.5 | △ 25.0 | 0.0 |
| 在庫動向 | 国産材製材品 | 10.0 | 0.0 | 20.0 |
| | 外材製材品 | 10.0 | 0.0 | 10.0 |
| | その他 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |

・国産材製材品の入荷は7月、8月の減少が、9月は横ばい。外材及びその他製材品の入荷は3ヵ月連続して減少。
・国産材、外材及びその他製材品の販売は7月及び8月の減少が、9月は横ばい。
・国産材及び外材製材品の在庫は7月の増加が、8月は横ばい、9月は再び増加。その他は3ヵ月連続して横ばい。

(2) 価格動向 Weight. D. I.

| 品目 | | 27/7月 | 8月 | 9月 |
|---------------|-------------|--------|--------|--------|
| スギ | 柱角 KD10.5×3 | △ 10.0 | △ 10.0 | △ 10.0 |
| | 柱角 KD12×3 | △ 10.0 | △ 10.0 | △ 10.0 |
| | 通し柱 12×6 | △ 16.7 | 0.0 | 16.7 |
| | 桁角 | 0.0 | △ 10.0 | △ 10.0 |
| | 母屋角 | △ 10.0 | △ 10.0 | △ 10.0 |
| | タルキ | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| | 間柱 | △ 20.0 | △ 10.0 | △ 10.0 |
| | 加工板 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| | ヌキ | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| | 平割 | 0.0 | 0.0 | 0.0 |
| ヒノキ | 柱角 KD10.5×3 | △ 40.0 | △ 20.0 | 0.0 |
| | 柱角 KD12×3 | △ 40.0 | △ 20.0 | 0.0 |
| | 土台角 10.5×4 | △ 30.0 | △ 20.0 | 0.0 |
| | 土台角 12×4 | △ 30.0 | △ 20.0 | 0.0 |
| | 通し柱 12×6 | △ 33.3 | △ 33.3 | 0.0 |
| カラマツ土台角10.5×4 | — | — | — | |
| 米マツ平角 | 0.0 | △ 10.0 | 0.0 | |
| 米マツ割物 | △ 10.0 | △ 10.0 | 0.0 | |
| 北洋エゾマツタルキ | 0.0 | 0.0 | 0.0 | |
| 北洋アカマツタルキ | 0.0 | 0.0 | 0.0 | |

・スギ製材品の柱角、母屋角及び間柱は弱含み。
・スギ通し柱はやや弱保合が9月にはやや強保合。
・スギ桁角は保合からやや弱含み。
・スギのタルキ、加工板、ヌキ及び平割は保合。
・ヒノキ製材品は7月及び8月の弱含みが、9月は保合。

・米マツ平角及び割物は総じてやや弱含みが、9月は保合。
。北洋エゾマツタルキ及びアカマツタルキは横ばいで推移。

モニターからのコメント

(荷動き)

・国産材入荷順調。外材WW4mものの品不足が出始めた。防音工事、ビルダー関係の動き減少。国産材製材品の荷動き悪く在庫やや増加、外材は品薄感がありやや増加。
・実需が伸びない。外材は仕入先の商社が買入れを控えているので品が入ってこない。販売は良くない。在庫を減らしている状況。
・各地で素材が減少、入荷減。販売低調は変わらず、見通しのやや増加は期待値。入荷減も販売弱く、在庫は未だあり。
・販売は全体に低調、特に国産材が悪い。

(価格動向)

- ・スギ柱角 (KD10.5cm、12.0cm) 60,000円/m³、スギ桁角 (東北グリーン材) 40,000円/m³、母屋角 (東北材) 40,000円/m³、スギタルキ (東北材) 45,000円/m³、スギ間柱 (KD) 65,000円/m³、スギ加工板 (東北グリーン材) 東2,800円、(KD) 東3,800円、スギヌキ (東北材) 40,000円/m³、(秋田) 48,000円/m³、スギ平割 (プレーナー) 45,000円/m³、同 (ラフ) 40,000円/m³、ヒノキ柱角・土台角 (KD) 85,000円/m³、米マツ平角KD65,000円/m³、米マツ割物AD65,000円/m³、北洋アカマツタルキ (S) 68,000円/m³、(P) 58,000円/m³。
- ・スギ製品は特に構造材の売行きが良くない。スギ加工品全般も価格の現状維持が精一杯。ヒノキは構造材が動かないので価格を下げざるを得ない状況。米マツは価格を据え置き。北洋エゾマツタルキ、北洋アカマツタルキは価格据え置き、実需次第。
- ・今までスギは相場維持してきたが、ここに来てやや下げ。スギ小径木製品は九州・四国の雨天などで更に下がる。ヒノキは底値定着と言える、下げ止まり期待。